



1. 土間の奥に設けたアウトドアグッズの収納コーナー。壁にワイルドな OSB 合板を取り入れたのもポイント。/ 2. 0部最大の特徴と言える広い土間。通路として、遊び場として、洗濯干し場として、使い方は無限大。「土間を作ることでリビングが狭くなるかも」という懸念もあったそうだが、使い勝手の良さがその心配を打ち消したそう。/ 3. リビングの横には琉球畳の和室を用意。床から高さを上げることで腰掛けることもできる。/ 4. 明るさとゆとりをもたらす大きな吹き抜け

土間を中心に ライフスタイルの 幅が広がる



Build a house with an architect

設計士とつくる、素敵な家。

「住む」は、「暮らす」。そこでどんな生活を営みたいかを考えるのが家づくりの第一歩。
『長崎材木店一級建築士事務所』では設計士が個々の想いを汲み取り、家族が落ち着いて明日を考えられる、そんな家づくりを提案。
今回は「おばあちゃん家のような家建てたい」という想いから誕生した、広い土間のある家をご紹介します。



Doma



Washitsu



Kitchen & Dining

「キッチンも木材に」と希望していたが、すべて木にするとコテコテ感が出るのでシンプルなホワイトのカウンターを採用。スッキリとした納まりのデザインとなり、カウンターチェアを置くことでスタイリッシュな印象

北九州市 O 邸

ゆとりとゆらぎをもたらす
L字土間のある住まい

「建てるなら純和風の家」と希望していました。土間があった祖母の家のような雰囲気にしたかったなと思っていました。打ち合わせの時にそんな想いを話していたところ、最初に仕上げていただいたラフプランに理想的な土間が盛り込まれていて、私たちの好みにドンピシャ。打ち合わせの段階から「こんな家が出来たら」と大盛り上がりでした」と奥さま。ご主人のご実家から引き継いだ大切なピアノを置きたいという要望に応えるため、土間の終点には専用のピアノホールが設けられた。ときおり、奥さまが娘さんと一緒にここで楽しい音色を奏でているそう。

広い土間を活用した 自由で便利な間取り

O邸の特徴はその外観もさることながら、個性的な間取りにある。玄関を開けるとまず目に飛び込んでくるのが、LDKをぐるりと囲むように設けられた広々としたL字型の土間。墨モルタルで仕上げたシックな色が、室内の淡いオフホワイトの壁や無垢材の優しい風合いと見事に調和している。

「最初は平屋を希望していて、それを専門にしている地元ハウスメーカーに話を聞きに行きました。でもいまいちピンとこなくて…。そこで平屋に限らず、範囲を広げて家づくりの情報収集をしていたところに出合ったのが『長崎材木店』でした。モデルハウスの素敵な木の雰囲気は惹かれ、何より展示場を案内していただいた設計士の西田さんと妻が意気投合したこと、家を作るのはこちらにお願いしたいなと思うようになりました」とご夫婦が振り返る。

家族の新たな歩みと共に 始まった念願の家づくり

ブラックの外壁に明るい茶色の木材がアクセントの住まい。和風旅館を思わせる和モダンで上品な佇まいが、住宅街の中でひととき目を引き付ける。こちらにお住まいになるのは、ご夫婦と高校生の息子さん、3歳の娘さんのOさんご一家だ。横浜で暮らしていたご家族がご主人の地元である北九州市にUターンし、この地に腰を据えようと家づくりを始めた。



設計士とつくる、素敵なお家。

Exterior



10



9

Entrance

9. 和風旅館のような大きな格子の引き戸を備えた玄関。来客があった時、玄関に入っすぐ手洗いができるように写真の反対側には手洗いを設けた。
10. シックな佇まいが印象的な外観。ブラックの外壁に軒天のビニー（オレンジ系の色）がコントラスト。格子状の壁が和の雰囲気を醸し出す

目的スペースと個室を1室だけ備えたコンパクトな2階を設け、勾配天井を採用。その分リビングの上部には大きな吹き抜けが生まれ、明るく開放的な雰囲気に。リビングや和室には扉を設けず、家全体がひとつの大きな空間のようにつながっている。そのように見える部分はオープンに、逆に寝室や洗面所といったプライベートな場所はひととめにして、壁で仕切っているのもポイント。さらに寝室・ウォークインクローゼット・洗面所・浴室という動線を確保することで、奥さまの家事ラクを叶えた。
「廊下やリビングを通らずに洗面所や浴室に行けるので、忙しい朝でもスムーズに身支度ができて助かっています。洗面所で室内干しした洗濯物を横のクローゼットにそのまま仕舞えるのも便利なんですよ。」
ご主人のお気に入りには、ご自身が強く希望したというお風呂。ライトアップされた和風庭園を望む浴室は、温泉旅館に行った気分になれるそう。ご夫婦共に、希望が叶った住まいに大満足のご様子だ。
「長崎材木店のパンフレットに書かれていた。私たちはお客さまと一生のお付き合いをします」という文言が印象に残っています。家を建てたら終わりではなく、30年くらい経った時に今度はリフォームをお願いしてまた関係を築けるのもいいなと。それも長崎材木店を選んだ理由です。」

「長崎材木店のわたしたち3名がO邸を担当しました」



設計士 西田 葉

Oさまとお話をさせていただくうちにライフスタイルやご趣味を知ることができ、「こんな家づくりがしたいのでは」とイメージが沸いてきました。それを最初のラフプランに落とし込んだところに入っていたが、嬉しく思っています。展示場の見学に来られた際にOさまが着目されたポイントもふまえ、具体的な生活動線や間取りをイメージしました。打ち合わせの際、椅子から立ち上がるほど白熱したことも強く印象に残っています。それほど情熱が感じられたので、私たちも期待に応えなければと思いました。



設計士 原田 匡

家づくりにお客さまの要望を取り入れることは当然なのですが、それが理由で普段使いしづらい家になってしまえば本末転倒です。Oさまの場合、当初はキッチンまで土間をつなげたいという要望がありましたが、実際に冷蔵庫や食器棚を置くと不便になるのではという懸念がありました。要望に応えつつも普段使いしやすくなるよう、奥さまとも相談しながらカウンターの横まで土間を広げることで取りました。特にキッチンは毎日使う場所なので、使い勝手や見た目のバランスにも気を配るようにしています。



現場監 平古場 誠吾

設計士が作った図面に対し、建設現場の進行調整や品質管理を担うのが現場監督の役割。図面上で作ると実際に作るのでは若干の差異が起こることがあり、そこを上手く収めるのが私たちの腕の見せどころです。O邸では土間や床の張り出し、天井の梁といった特殊な部分があったので、設計士の原田さんや大工さんとも相談しながら細かい部分にも気を配って仕上げていきました。その中で大切にしたのは、Oさまに対するイメージ。ご主人さまが家族を優しく包み込む姿を想像しながら、現場での家づくりを進めました。



木のぬくもりに
そっと包まれる
優しい空間



5

Living



6



Kitchen



8

5. 無垢材をふんだんに使った勾配天井を見上げるリビング。木に囲まれて心地よい。6. 「ピアノを置く場所がほしい」という奥さまのリクエストに応えるため、土間奥の2畳分のスペースに床を貼って専用のピアノノールを作った。7. たっぷりとした収納と広さを兼ね備えたキッチン。[長崎材木店]の提案でアイランド風のキッチンを採用した。当初はキッチンの中で土間にする案もあったが、実際の使い勝手を考慮して床を貼ることにしたそう。8. カウンターはキッチンとの高さに合わせて、バーカウンター風に

当初は平屋を希望していたOさまですが、土地の面積的に希望に叶う広さが確保できなかったため、多

開放的な空間の中に 垣間見える家事ラク動線

家の顔とも言える土間は見た目の良さだけでなく、多彩な役割も担う。「せっかくなので、素敵な土間に靴を雑然と並べたくない」というご夫婦の要望に応えるため、床を張り出して靴を入れられるスペースを作った。この、技あり収納により、シューズクロークを設けずとも家族全員の靴をスッキリと収納できるように。さらにアウトドア好きなご一家のために、土間の一角にはテントやバーベキューグッズを収納できる専用のスペースが設けられた。
「玄関からキッチンまで土間を伸ばしてもらったので、靴を脱がずに買物の荷物を運べるとしても便利なんです。アウトドアグッズの出し入れもスムーズになり、思っていた時にデッキと繋げておうちバーベキューを楽しめるようになりました。」